

特別寄稿

中国・台湾訪問記
再来一杯茶 《5》

(お茶をもう一杯下さい)

※台北圓山大飯店に泊まる

実家の長男夫婦を連れて妻と共に台湾旅行をした時に、台北の圓山大飯店に初めて宿泊した。圓山大飯店は東洋一と言われるホテルで、内装は豪華絢爛たる建物であった。各部屋には大きなベランダと網戸があり、網戸はガラスドアの室内側に取り付けられていて日本のとは反対だ。「なるほど、こうすれば網戸が泥で汚れなくて良い」と感心した。各部屋の天井は、日光東照宮の天井と同じような格子があり、その中の一つ一つに彫刻や絵がはめられていた。圓山大飯店は台北市内のやや北側の小高い丘の上にあり、昔は日本神社があった由緒のある土地柄だそうだ。その丘の下に、士林(シーリン)と呼ばれる街が在り台湾一の規模の夜市が朝まで営業している。また蒋介石が使っていた公邸も近くにある。

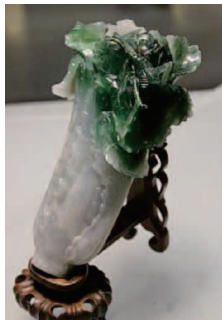
圓山大飯店に宿泊した翌朝、丘の下まで散歩したら小さな公園があった。その公園にマンホールの鉄蓋があり、ふと見ると「春眠暁を覚えず」の唐詩が刻み込まれていた。「マンホールに唐詩とはさすがは台湾だ!」と感心すると同時に、中国語でその唐詩を念じた朝だった。



圓山大飯店(台北)

※台湾故宮博物院

中国歴代皇帝のコレクションした文物は日中戦争から避けるため、北京の紫禁城から南京へ、さらに重慶→昆明→四川と移動した。終戦後には南京に戻ったものの、今度は国共内戦で台湾に移動した。移動するたびに良い物だけが厳選されたので、台湾の故宮博物院の文物は一級品である。

翠玉白菜
(台湾故宮博物院)

台湾市内を移動する際は、当初タクシーを使っていたが、ある時から電車とバスを使うようになった。一般の乗物で移動しないと、その国の、本当の良さが分からないからだ。一般交通機関を利用するために、私は日本のスイカのような機能の「悠游(ヨーヨー)カード」を持っている。電車とバスは悠游カードで全て済ませるので、外国の小銭を持ち歩かなくても良いので便利だ。したがって勿論故宮にはMRT(電車)とバスで行く。古物が好きな私は故宮へ何度行っても飽かず、ゆっくり見て歩く。特に印象

が深い宝物が二つある。一つは翠玉白菜(写真)だ。台湾の観光地にこれを真似たお土産があるが、見ると迫力が全く違いますがは歴代皇帝の宝物なのだ。もう一つは白磁の湯飲み茶碗だ。形・大きさ共会社の食堂のプラスチックのお茶飲み碗と同じなのだが、何故か故宮の茶碗は気迫がズンズン心に伝わって来て、「やっぱり宝物は違うな!」と思わせる。

※北京故宮博物院



故宮博物院・紫禁城(北京)

中国語会話を勉強して1年目の時に、初めて北京旅行をした。勿論中国語はまだ聞くも話すもできず、中国人に話しかけられてもチンブンカンブンである。このチンブンカンブンは、中国語が語源ではないかと思っている。中国語では「聞いて分からない」ことを「聽不懂(チン・ブー・ドン)」と言う。まだ「見て分からない」ことを「看不懂(カン・ブー・ドン)」と言う。聞いても見ても分からないことは、二つを続けて「聽不懂看不懂(チン・ブー・ドン・カン・ブー・ドン)」と言うが、「チンブンカンブン」とほぼ同じだ。

この「旅行中に、紫禁城内にある北京故宮博物院を訪れた。入口近くでは中国人が、「ダオヨー・ダオヨー」と大声で叫んでいた。「はて何と言っているのだろうか?」近くの人に教えてもらって分かったのが、「導游・導游」で観光案内をする意味であった。また近くでアイスキャンデーの売子が、「ウーリン・ウーリン」とまた訳の分からない中国語を発していた。これも聞いて分かったのが、「50(“5”ウー・“0”リン)・50」で1本50分(=5角)の意味であった。5角は、当時の日本円レートでは6円相当である。

そうこうしている内に北京故宮博物院に入ることができた。院の中の展示物は、台湾の故宮博物院と比べたら少々物足りなく感じた。やはり選りすぐれた物は、台湾の故宮博物院にコレクションされているようだ。

やや期待外れの故宮博物院を出て、隣の紫禁城を見学した。赤い壁が両側にある場所(写真:紫禁城内で)は、映画ラストエンペラーのロケで使われた所だ。

紫禁城は歴代皇帝の居所だけあって、実に広大で立派な建築物だった。一段と高くなっている建物の入口には石の階段があり、階段の中央には巨大な石に龍が彫刻されていた。皇帝は輿(こし)に乗って龍の彫刻の上を通たらしい。この立派な階段は遠地から、地面が凍る冬季の間に滑らせて運んだとのこと。さすがは世界有数の建築物だと感心させられた。



紫禁城内で(北京)

総合建設業



伊藤工業株式会社



本社認証取得

代表取締役社長 伊藤 満 (昭和54年土木科卒)

本 社

〒010-1221 秋田市雄和平沢字舟津田78-1
TEL. 018-886-2135 FAX. 018-886-2749
E-mail. info@ito-kogyo.jp
URL. http://www.ito-kogyo.jp/